

## 第1回翻訳者育成事業（翻訳コンクール）の結果について

文化庁では、文芸作品の優れた翻訳家を発掘・育成するため、平成22年12月より公募してまいりました翻訳者育成事業（翻訳コンクール）について、この度、第1回の受賞者を決定しましたのでお知らせします。

## 1. 趣 旨

優れた翻訳家を発掘、育成することにより、我が国の文学を世界に発信する土壌を醸成し、もって文学活動の奨励と振興に資する。

## 2. 応募数

応募人数：101名（うち3件無効）

選考対象作品：英語65名（130作品）、ドイツ語33名（66作品）

## 3. 受賞者 ※（ ）内は国籍，〔 〕内は選択した課題図書

英語 / 最優秀賞（1名） ポリー・バートン（英国）  
〔「都市生活」「ヘビについてI, II, III」〕  
優秀賞（2名） 松島あおい（日本）  
〔「白っていうより銀」「ヘビについてI, II, III」〕  
フィリップ・ブラウン（英国）  
〔「リヤカーを曳いて」「ヘビについてI, II, III」〕

独語 / 最優秀賞（1名） セバスティアン・ブロイ（ドイツ）  
〔「都市生活」「ヘビについてI, II, III」〕  
優秀賞（2名） ナディーン・グルーシュヴィッツ（ドイツ）  
〔「都市生活」「ヘビについてI, II, III」〕  
イザベル・渚・マッテス（ドイツ）  
〔「リヤカーを曳いて」「（翻訳）懶惰の説」〕

## 4. 問い合わせ先

現代日本文学翻訳・普及事業（JLPP）事務局

東京都千代田区猿楽町1-5-1-6F

TEL 03-5577-6424

FAX 03-3295-6065

ホームページ <http://www.jlpp.go.jp> e-mail [jlpp-info@gf7.so-net.ne.jp](mailto:jlpp-info@gf7.so-net.ne.jp)

## 5. その他

受賞者には、文化庁長官より賞状及び盾を贈呈します。

<担当> 文化庁文化部芸術文化課  
芸術文化課長 舟橋 徹（内線2822）  
支援推進室長 石垣 鉄也（内線2858）  
支援推進室室長補佐 猿度 毅（内線2084）  
支援推進室育成係長 尾曲 剛志（内線2081）  
電話 03-5253-4111（代表）03-6734-2081（夜間直通）

## 第1回翻訳者育成事業（翻訳コンクール）選評

### ○全体講評

今回がコンクール第1回ということで、応募者の人数や力のレベルの予測がつきませんでした。幸い蓋を開けてみると、応募者数・翻訳の出来栄とともに、期待を上回るものでした。3編ずつ用意された小説と評論・エッセイの課題図書から、それぞれ1編ずつを選んで英語訳、あるいはドイツ語訳を提出するという課題に対して、英語訳は66名、ドイツ語訳は35名の応募がありました（※）。課題図書がかなり難解であり、また翻訳作業に与えられた期間も限られていたにもかかわらず、応募作品の中には極めて良質で、周到な事前の調査や準備をうかがわせるものが少なくありませんでした。応募者の皆様に心からお礼を申し上げます。

※うち3件無効。

### ○英語部門

英語訳については、日本文学・比較文学・英文学を専門とするアメリカ人1名、日本人2名が最終審査に当たり、あらかじめ互いに採点結果を報告した上で、平成24年3月に集まって、議論を重ねました。主な判断基準は2点、(1)英文として優れていること、そして(2)日本語の課題図書の意味、ニュアンスや響きをよく伝えていることです。最終的に、「都市生活」と「ヘビについてI, II, III」を訳したポリ・パートン氏に最優秀賞、松島あおい氏とフィリップ・ブラウン氏の2名に優秀賞を授与することに、審査委員の意見が完全に一致しました。中でも最優秀賞のポリ・パートン氏は、英文の文学的クオリティについても、課題図書の読解についても、ほぼそのまま翻訳者として通用し得る高い成果を達成されました。また、優秀賞の2名の作品も、それに勝るとも劣らぬ優れた訳であり、審査委員も授賞作の決定に頭を悩ますほどであったことを特記します。

この翻訳コンクールの最大の趣旨は、日本語文芸作品の外国語翻訳の将来を担う優秀な翻訳家の発掘・育成にあります。その点からみて、第1回コンクールが誠に順調に滑り出したことを、審査委員として喜びたいと思います。

### ○独語部門

第1回翻訳コンクールのドイツ語翻訳の審査では、最優秀賞にセバスティアン・ブロイさん、優秀賞にナディーン・グルーシュヴィッツさんとイザベル・マリ・ナギサ・マッテスさんが選出されました。

池澤夏樹『都市生活』と安部公房『ヘビについてI, II, III』を訳されたブロイさんは、日本語の課題図書の理解が極めて正確である上に、小説においては同時代の日本人の会話の様態を、エッセイにおいては自己韜晦（とうかい）や逆説にあふれる原文の細部にいたる雰囲気、適切にドイツ語に移していると、高い評価を得ました。これから翻訳家として活躍してゆくに足りる十分な力量の持ち主であると、審査員の意見が一致しました。

同様に『都市生活』と『ヘビについてI, II, III』を訳されたグルーシュヴィッツさんに対しても翻訳は正確であると高い評価が下されました。ただ、ブロイさんと比較した場合に、日本語文章の細かいニュアンスを伝えるに当たって、若干注文を付ける余地が指摘されました。

水上勉『リヤカーを曳いて』と谷崎潤一郎『懶情の説』を訳されたマッテスさんは、漢文混じりで理解が極めて困難な谷崎の課題図書を誠に正確に訳されていることに驚嘆の声が挙がるほどでした。ただ水上訳においては、細部において明らかな誤訳等が少なからず混在したことが残念でした。

今回の選に漏れた応募者の多くにおいては、日本語の課題図書の理解が必ずしも十分でない、文体のもつ個性を捉え切れていない等々の指摘がなされました。

しかし、全体としてみたときには、応募者の翻訳は予想以上に水準が高く、今後の努力、研鑽（けんさん）を通じてより一層質の高い翻訳を生み出してくださるものと期待されます。今後の御精進を切にお祈り申し上げます。

## ○現代日本文学の翻訳・普及事業について

我が国の優れた文学作品等を英語等に翻訳して諸外国において出版・普及を図り、あわせて優れた翻訳者を育成することにより、我が国の文化を海外に発信し、国際社会における諸外国との相互理解を促進するとともに、我が国文学水準の一層の向上を図ることを目的とし、以下の(1)～(3)の事業を実施。

### (1) 翻訳事業

我が国の優れた現代日本文学等を海外に発信するため、外部有識者による委員会を設置し作品を選定し、翻訳・出版を行う。これまでに川上弘美著『真鶴』、筒井康隆著『ヘル』、山田太一著『異人たちとの夏』など123作品(※1)を選定し、のべ119作品(※2)の翻訳・出版を実施。

※1 1作品を複数の言語に翻訳しており、1言語を1作品とした場合は222作品

※2 複数言語にて翻訳・出版した作品は、言語毎に1作品として計上

【参考】山田太一著『異人たちとの夏』、川上弘美著『真鶴』、『芥川龍之介 短編集』については、売上部数が1万部以上を計上。

### (2) 交流普及事業

海外において我が国の文学に触れる機会を提供するため、(1) 翻訳事業において出版された作品の一部を買い上げ、各国の大学・図書館や文化機関等へ翻訳作品を寄贈。

【寄贈先件数】英語版905件、ドイツ語版479件、フランス語版403件、ロシア語版428件

### (3) 翻訳者育成事業

優れた翻訳者を養成するため翻訳者コンクールを行い優れた翻訳者を顕彰し、発掘した優れた翻訳者を育成することにより、我が国の文学を海外に発信できる土壌を醸成する。

## ○現代日本文学翻訳・普及事業 第1回翻訳者育成事業(翻訳コンクール)概要

### 1 応募資格

国籍、年齢は問わない。ただし、かつて文芸作品及びそれに類する作品の翻訳出版(2人以上で翻訳した場合も含む)の経験のある人は応募不可。

2 翻訳作品受付期間 平成23年9月1日～平成23年11月30日

### 3 課題図書

#### (1) 小説の部

池澤 夏樹 「都市生活」、角田 光代 「白っていうより銀」  
水上 勉 「リヤカーを曳いて」

#### (2) 評論・エッセイの部

安部 公房 「ヘビについてⅠ、Ⅱ、Ⅲ」、白洲 正子 「お香とお能」  
谷崎潤一郎 「<sup>らんだ</sup>懶惰の説」

4 翻訳点数 小説の部、評論・エッセイの部より各1点、計2点

5 翻訳言語 英語又はドイツ語

6 賞 最優秀賞 各言語1名、優秀賞 各言語2名

### 7 審査員

(英語)

スティーブン・B・スナイダー (ミドルベリー大学教授、日本文学)

川本皓嗣 (東京大学名誉教授、比較文学)、高橋和久 (東京大学教授、英文学)

(独語)

エドゥアルド・クロッペンシュタイン (チューリヒ大学教授、日本文学)

池田信雄 (東京大学教授、ドイツ文学)、初見 基 (日本大学教授、ドイツ文学)